

防災通信

第12号

2025年(令和7年)
5月30日発行

防災視点から見た大阪万博について!!

ダブルエッチジャーの皆様こんにちは、防災委員会です。新年度になりまして、第1回目の発行となる12号ですが、今回は先月ついに開幕した大阪万博を防災の視点から皆様へお伝えしたいと思えます。

さて、開幕から1カ月が経った大阪万博ですが皆様はもう行かれたか？私は2005

年の愛知万博を教訓に、できるだけ早い時期なら空いているだろうと計画して開幕から少したって行ってきました。当然、計画段階で、どのパビリオンを見るか？様々なパビリオンについて事前に調べるわけですが、ふと、こういったイベントの際はどういうような防災対策がとられているか？気になったので調べてみることにしました。

まずは万博がある「夢洲(ゆめしま)」という土地ですがここは人口島になっており、周りは海で囲まれていて津波が心配されていますが、会場は埋め立てにより地盤が高くなっており、意外にも「浸水はしない」想定になっているようです。私も万博の象徴でもある、円環リングに上がって

周りを見渡してみると当然のごとく海に囲まれている、若干不安になりましたが、いざとなれば円環の高さも20メートルあるので津波に関してはそれほど心配する必要はないようです。

次に先ほどは津波に關してはそれほど心配する必要無いと書きましたが、地震そのものに関してはどうでしょう？

うか？各パビリオンに關しては万博終了後に取り壊す予定で耐震強度はどうなのか？と少し心配になりますが、耐震対策は、「建築基準法などの法令や基準に準じて設計している」とありましたので、取り合えずすぐに崩れる様な建築物ではないことが分かります。また実際に地震が起きた際、備蓄品はどうなっているのでしょうか？万博側の発表によると「会場に備蓄倉庫を建設してあり約90万食分の食料を確保している」とのことです。これは会場にいる人が15万

人として3日分相当になるようですが、会場の夢洲へのアクセスルートが橋とトンネルの2つしかないことを考えると、最悪、夢洲から出られない可能性があり、少し不安を覚えます。また、会場内の避難スペースにも課題があるようです。協会の試算では、会場内で孤立した人たちが避難することができない屋内のスペースは1人あたり1畳1畳分として計算しても、およそ10万人分として計算しているようです。ですので10万人を超えた人数は雨風を防げる屋内には

災害ダイヤル

P.Nセッキー



※ 悪用厳禁です

さて、ここまでは地震や津波等、大型の災害について見てきました。が、今度はもう少し身近な万博の救急救護関係の備えについてみていきましょう。万博では急な体調不良や怪我人に対応するために会場内に東西ゲート付近

とリングの北側に計3ヶ所の診療所があり、他にも5ヶ所の応急手当所を設けています。また広い会場内で、万が一、心停止して電気ショックが必要な方に一刻も早くAEDが使用できるよう、会場内は合計150台のAED

Dが設置されていたり緊急用のドクターヘリの離着陸のためにヘリポートも設置されているようです。他にもこれから夏季にかけて熱中症等の対策に来場者への情報提供、啓発をはじめ、会場内各所に自動販売機(約

250台)、ウォーターサーバー(約50台)、マイボトル給水機を設置しています。特にマイボトル給水機は水筒やペットボトルに水を無料で汲むことが出来るので便利だなと思いました。が数は自販機程多くはないので昼間はちょっとした列が出来ていたことが気にはなりました。

以上、今回は万博の防災面についての対策をみてきましたがいかがでしたでしょうか？皆さんももし今後、大阪万博に行くようなことがあればこういったイベントに關しての防災知識も何かの時に役立つことがあるかもしれないですね。

それではまた次号にてお会いしましょう。

新聞の途中ですがここ
で新年度からの防災委員会
の委員を紹介したいと思
います。令和7年度は
杉江さんが労務委員会
へ異動することになり
2年間所屬した防災委
員会を抜けることにな
りました。杉江さんは
前回記事にもあった
「中部ライフガードT
EC」に共に参加し、
勢力的に活動してい
ただいておりましたが、

異動後は労務委員会
のことなので、持ち前
の行動力を活かして活
躍していただきたいと
思っております。
次に新規委員の紹介
ですが今年度は新たに
2名の職員を防災委員
会の新メンバーとして
迎えることになりました。
それぞれ一言「コメント
いただいたので掲載
させていただきます。
以上、今年度は2名の
新メンバーを迎えて、
計8名で活動すること
となりましたので紹介
させていただきます。
た。それでは今年度
もこうした新聞の発行
を始め、様々な活動
を通じて、ダブルエ
ッチェン全体
の防災意識の向上
に尽力していきたい
と思います。皆様
からも防災に關する
質問や意見等ありま
したら、積極的に防
災委員会へお問
い合わせいただき
ければ幸いです。
(松原)

令和7年度防災委員会紹介

TSヒマワリ瀧川さん

「防災委員会では自分
身も学びながらみな
さんにいろんなこと
を発信できるように頑
張りたいと思います。
よろしくお願いいたします。
まんなか御田田さん

「令和7年度から防
災委員会に入る事
になりました、ふれあ
いのかの御田田育大
です。これから防
災委員として頑張
りたいのでよろしく
お願いします。」

以上、今年度は2名の
新メンバーを迎えて、
計8名で活動すること
となりましたので紹介
させていただきます。
た。それでは今年度
もこうした新聞の発行
を始め、様々な活動
を通じて、ダブルエ
ッチェン全体
の防災意識の向上
に尽力していきたい
と思います。皆様
からも防災に關する
質問や意見等ありま
したら、積極的に防
災委員会へお問
い合わせいただき
ければ幸いです。
(松原)



医療救護施設（診療所・応急手当所）

	診療所(3カ所)	応急手当所(5カ所)
配置	医師・看護師・救護隊	看護師・救護隊
対応	応急的な診療や緊急度判定	トリアージや簡易な外傷処置
検査	緊急度の判定および診療を 目的とした検査 →超音波検査、血液検査 等	緊急度の判定を目的とした検査 →12誘導心電図測定、SpO ₂ 測定 等
処置	鎮痛薬処方や点滴など	一時的な体調不良者の静養 簡易な外傷処置
緊急対応器具	蘇生器具・薬剤・除細動器 輪状甲状靱帯切開キット、 トロッカカテーテル等 (気胸バック含む)	蘇生器具、薬剤、AED等



新聞の途中ですがここ
で新年度からの防災委員会
の委員を紹介したいと思
います。令和7年度は
杉江さんが労務委員会
へ異動することになり
2年間所屬した防災委
員会を抜けることにな
りました。杉江さんは
前回記事にもあった
「中部ライフガードT
EC」に共に参加し、
勢力的に活動してい
ただいておりませんが、

異動後は労務委員会
のことなので、持ち前
の行動力を活かして活
躍していただきたいと
思っております。
次に新規委員の紹介
ですが今年度は新たに
2名の職員を防災委員
会の新メンバーとして
迎えることになりました。
それぞれ一言「コメント
いただいたので掲載
させていただきます。
以上、今年度は2名の
新メンバーを迎えて、
計8名で活動すること
となりましたので紹介
させていただきます。
た。それでは今年度
もこうした新聞の発行
を始め、様々な活動
を通じて、ダブルエ
ッチェン全体
の防災意識の向上
に尽力していきたい
と思います。皆様
からも防災に關する
質問や意見等ありま
したら、積極的に防
災委員会へお問
い合わせいただき
ければ幸いです。
(松原)

「令和7年度から防
災委員会に入る事
になりました、ふれあ
いのかの御田田育大
です。これから防
災委員として頑張
りたいのでよろしく
お願いします。」



車内の備蓄 万が一に備えて

車で外出した際に予期せぬ災害に巻き込まれてしまう可能性があります。万が一の事態に備えて車内に必要なアイテムを備えておくことは乗車している人の安全を守る上で重要です。この記事では常備しておいた方がよいアイテムをご紹介します。



○車内での生活を支える防災アイテム○

車での災害時生活を支えるため、食料・水、保温・冷却グッズ、衛生管理・応急処置キット、非常用トイレと衛生用品の準備が重要です。非常食や保存水は長時間の待機や避難を支え、季節や地域に応じた保温・冷却アイテムが快適性を保ちます。

怪我や病気のリスクに備えて応急処置グッズや衛生用品を備え、トイレが使用できない状況でも清潔を維持できるようトイレ用品や消毒用品が必要です。これらの防災アイテムを車内に備えることで、災害時の生活を効果的に支援します。災害への備えとして、これらの準備をお忘れなく。

○食料と水の備蓄方法○

食料と水の備蓄方法は、災害時における車内生活を支える重要な要素です。車内には、長時間過ごす可能性があるため、食料と水の確保が不可欠です。

まず、食料については非常食として保存性の高い缶詰やレトルト食品、乾燥食品を用意することが重要です。さらに、栄養バランスを考えておかゆやカロリーメイトなども準備しておくといいでしょう。また、水については1人1日あたり2リットルの確保を目安に、ペットボトルや水筒に水を入れておく必要があります。

災害時には食料や水の調達が難しくなることが予想されるため、備蓄は事前にしっかりと行っておくことが大切です。定期的に食品や水の賞味期限を確認し、必要に応じて更新を行うことも忘れないようにしましょう。

○暑さ・寒さ対策グッズ○

車内での暑さ・寒さ対策は、災害時における快適な生活を支える重要な要素です。暑い夏や寒い冬に備えて、適切な対策グッズを用意しておくことが必須です。

まずは、夏場に必要暑さ対策グッズとして、保冷剤や保冷バッグ、日除けシート、冷感タオルなどが挙げられます。これらのアイテムは、高温の車内でも涼しさを保つのに役立ちます。

一方、寒い冬に備える寒さ対策グッズとしては、防寒ブランケット、カイロ、防寒着、手袋、マフラーなどが重要です。これらのアイテムは、突然の寒波や雪に見舞われた際に体温を保ち、低体温症などのリスクを軽減します。さらに、四季の変化や地域によって異なる気候条件に合わせて、適切な暑さ・寒さ対策グッズを選ぶことが重要です。車内で快適に過ごすために、十分な備えをしておきましょう。

○衛生管理と応急処置キット○

車内での衛生管理と応急処置キットの準備は、災害時における重要なポイントの一つです。まず、応急処置キットには絆創膏や消毒液、包帯などの基本的な医療用品が必須です。また、常備薬や医師の処方箋も忘れずに準備しておくことで安心です。さらに、災害時には手洗いや傷口の清潔を保つことが重要です。手指消毒剤や石鹸、タオルなどの衛生用品も必要不可欠です。特に、水が不足している状況下では、アルコール消毒液が役立ちます。

実際の準備はなかなか難しいかもしれませんが、災害時には急な体調不良やケガが発生する可能性が高いため、応急処置キットと衛生用品は常に整備されていることが重要です。車内にこれらのアイテムを備えておくことで、

万が一の際に安心して対処することができます。

○非常用トイレとその他の衛生用品○

非常用トイレとその他の衛生用品は、災害時に車内での生活を支える重要なアイテムです。非常用トイレは、トイレが使用できない状況でも排泄物を処理することができる便利なアイテムです。被災者の意見を聞くところによると、「一番困るのはトイレ」と答える方は少なくありません。できれば簡易トイレを常備しておきたいものです。その他の衛生用品としては、ウェットティッシュや消毒液、使い捨て手袋などが挙げられます。これらのアイテムは、清潔な状態を保つことで感染症の予防にもつながります。災害時には、トイレや衛生用品だけでなく、応急処置キットなども準備しておくことが重要です。

○まとめ○

車内での災害備えは、自然災害に直面した時の安全確保に不可欠です。地震や洪水など突然の事態に備え、水、非常食、毛布、懐中電灯、予備バッテリー、応急処置キット、火災消火器、救急セットなどの生存キットを車内に備えることが重要です。これにより、車が避難場所や移動手段として機能します。さらに、携帯電話の充電器やポータブル電源、地図やコンパスなどのナビゲーションツールも、通信手段の確保や電子機器が使えなくなった際のために役立ちます。車内での適切な装備と準備により、いざという時に冷静かつ迅速に対応可能となり、日頃からの準備が災害時の安全に繋がります。(杉江・森下)

防火管理者について

防火管理者について

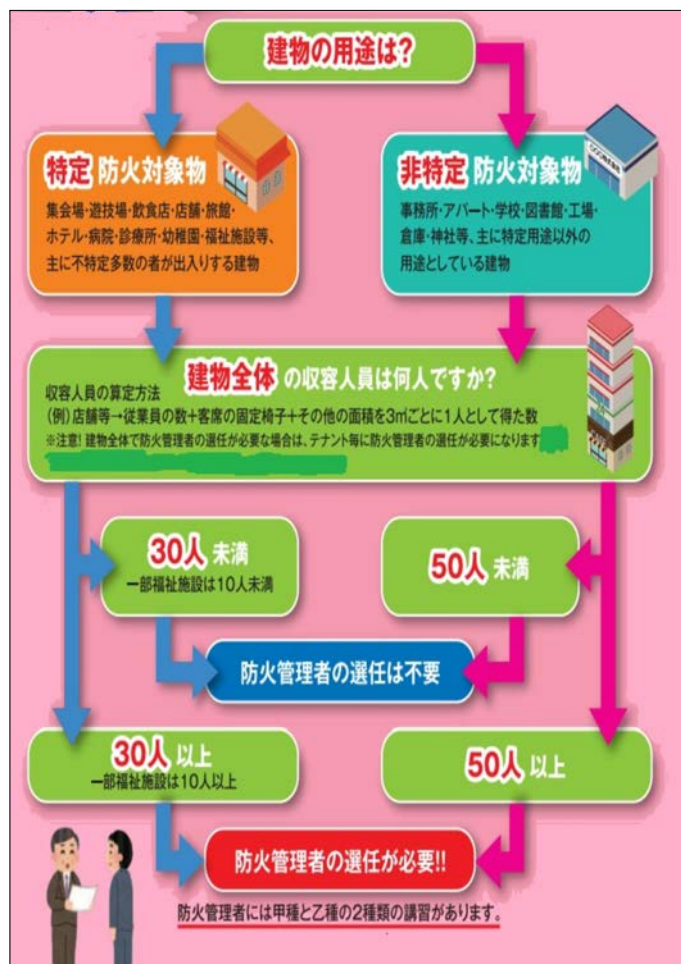
いよいよ年度末、年度初めということで今回は事業所の運営には欠かせない「防火管理者」についてまとめてみました。なんとなく受講している感じになっていませんか？以前の私のことです。

まずどんなものか？消防法に定められた国家資格であり、しかも学歴や学識は要件

を満たしてなくても取得できます。国家資格だったとは驚きです。甲種と乙種に分かれており、建物の用途や規模によって異なります。甲種がすべての防火対象物で選任でき、乙種は比較的小規模な防火対象物に限られます。ご自身の事業所が乙種でまかなえるかがどちらを受講するかで線引きになりそうです。

1日間の講習と最後に○×テストがあります。ちゃんと講習を聞いていれば満点でしょう。取得の条件ではありませんがどんな人が取得し、担当すべきかという管理者の立場であり、建物の管理を任せられている一定以上の地位の役職者が望ましいとのこと。大変プレッシャー。お仕事はどうかと調べると、防火管理者に

選任されたら行う業務は消防計画の作成、避難訓練の実施、火気の取り扱いの監督、避難に必要な設備の維持、管理。など防災関係全般を担当することになります。今回は防火管理者について調べてみました。震災や火災が多く報道される中、各事業所の防火管理者の方は今一度、備品などの点検をしてみたいかがでしょうか？最後までお付き合い頂きありがとうございました。(石川、菅野)



災害にも種類があり、その災害によって必要なものが変わることがあります。そこで季節別に起きやすい災害をまとめてみました。



春に起こりやすい災害



○春一番（2月～3月頃）…北海道、東北地方の北日本と沖縄を除く地域でその年に初めて吹く、暖かく強い南風(8 m/s)のことを指します。海難事故や雪崩や融雪洪水などの気象災害を引き起こしたりします。

○メイストーム（3月～5月頃）…北からの冷たい空気と南からの暖かい空気がぶつかり日本列島付近に温帯低気圧が急速に発達する台風並みの暴風や猛吹雪を指します。台風とは違い1～2日で急激に発達する上に、低気圧の中心から離れたところでも風が強ク吹くため、被害の範囲が広くなりやすい特徴があります。

○融雪洪水（3月～5月頃）…雪解け時期、積もった雪が気温上昇により大量に融けて河川に流れ込み、増水による洪水のことを指します。雪解け時期が毎年ほぼ同じのため備えやすい災害と言えます。

○雪崩（1月～3月頃）…急斜面上などに降り積もった雪や氷が重力の影響を受けて崩れ落ちる現象を指します。古い積雪面の上に降り積もった新雪だけが滑り落ちる「表層雪崩」はすべり面が積雪内部にあり気温が低く降雪が続く1～2月に発生しやすい。斜面に降り積もった古い積雪と新雪が地表面を滑り落ちる「全層雪崩」はすべり面が地表面にあり春先の融雪期など気温が上昇したときに多く発生します。表層雪崩は時速100～200km、全層雪崩は時速40～80kmといずれも崩れ落ちるスピードが速く、破壊力もあるため被害範囲も広がります。



夏に起こりやすい災害



○ゲリラ豪雨（5月～9月頃）…局地的な大雨のことを指します。地上付近と上空の温度差がより大きく、大気の状態が不安定な場合に発生する積乱雲が大雨をもたらし、この積乱雲は数分間で急速に発達し、短期間で降りやみます。降水域が局所的であり二次災害を想定しにくいです。

○猛暑（7月～8月頃）…最高気温が35℃以上の日は猛暑日と言います。猛暑日の増加により熱中症で救急搬送される件数も増え、命の危機にさらされるだけでなく農業、畜産、漁業佐渡の生活にも影響を与えています。

○土砂災害（3月～10月頃）…融雪や梅雨時期、台風による大雨や地震等により山や崖が崩れ、崩れた土砂が雨水や川の水と混ざって流れ出たり、建物を押し潰したりすることを指します。主な土砂災害は山腹や川底の意思や土砂が集中豪雨等によって一気に下流へ押し流される「土石流」と山の斜面や自然の急傾斜の崖等が突然崩れ落ちる「崖崩れ」、斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する「地滑り」があります。



秋に起こりやすい災害



○台風（7月～10月頃）…熱帯の海上で発生した熱帯低気圧のうち、北西太平洋または南シナ海上に存在して、中心付近の最大風速が17m/秒以上になったものを台風と呼びます。台風を中心に暴風域や強風域を伴っており、暴風、強風や局地的豪雨による深刻な風水害や台風周辺でしばしば竜巻等の突風災害が発生します。

○長雨（9月～10月頃）…秋雨前線とも言い、9月～10月頃にかけて日本列島付近に現れる停滞前線を指します。太平洋側の高気圧の勢いが弱まる一方で、大陸側の高気圧が勢いを増すことにより、二つの高気圧の境目に前線が発生して停滞し長雨を降らします。秋雨前線や台風の影響で大雨が続いたり、気温が高い日はゲリラ豪雨もあり大きな災害が発生するリスクが高まります。

○竜巻等の突風（9月頃）…竜巻とは自然現象の一つ「突風」に分類され積乱雲に伴う上昇気流によって9月頃発生する激しい空気の渦巻きのことを指します。災害をもたらす自然災害の中では規模が小さいですが毎年全国各地で発生しており規模や地域によっては鉄筋コンクリートの建物を崩壊させる等大きなものもあります。



冬に起こりやすい災害



○豪雪（2月～3月）…2月～3月頃、比較的短時間に多量に降る雪を指し、一晩に1 m以上の降雪が目安になってます。積雪や凍結によって引き起こされる雪害の代表的なものとしては雪崩、除雪中の転落事故、路面凍結による交通災害や歩行中の転倒事故が考えられます。

○乾燥（11月～3月頃）…温度が高いほど空気中の水分量は多くなり反対に温度が低いほど空気中の水分量は少なくなるため、気温の低い冬の間は、非常に空気は乾燥します。空気が乾燥する冬場に発生する災害に「火災の発生」があります。異常乾燥や落雷によって山火事が発生すると、生態系や人命、産業に大きな被害を与えてしまいます。

（まとめ）

いつ来るかわからない地震はともかく、住んでいる地域やテレビ等の情報である程度予測ができる災害があると思います。その時々災害や季節によって準備するべきものが異なるのでその都度準備をしておくことが大切です。事前に一度準備したからいいというわけではなく、住んでいる場所に新たな建物が建ったりすることでハザードマップも変わっているかもしれないので最新版を確認するようにして予測できる災害には備えましょう。（井田）



委員長のススメvol. 12

家族向け安否確認アプリのススメ！！



このコーナーでは毎回、私自身がこれまで見たり聴いたり体験した事の中でこれはいいなと思う素材を紹介していくコーナーです。

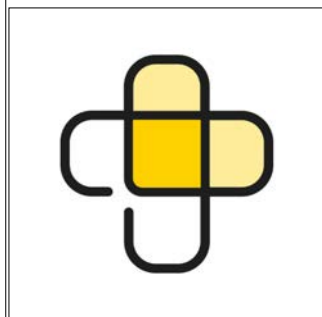
今回は第12回目ということで、大型災害に備え、特に家族間での安否確認に有効なアプリについて解説していきたいと思います。

それでは第12回スタート！！

政府では定期的に南海トラフ地震の発生確率の引き上げを発表していますが、最新の発表だと今後30年以内の発生確率が「80%程度」だそうです。

南海トラフ巨大地震を巡る発生確率は2013年から出され、この時は「60～70%」、14年は「70%程度」、18年に「70～80%」と年を追うごとに段階的に引き上げられていました。今回国の地震調査委員会が再計算した結果が「75～82%」との数字が出たため「80%程度」との表現にしたそうです。このように毎年のように発生確率が上がっていると言える南海トラフ地震について、もし実際に地震が起こった際に皆さんは家族間での安否確認方法や連絡が取れない場合の避難場所など対応方法を決めていますでしょうか？

今回はそのような緊急事態における家族間での安否確認に有効なアプリを紹介していきたいと思います。



アプリ名：

「クロスゼロforファミリー」

対応OS：

iOS, Android

価格、費用：

ファミリー版は無料

ビジネス版のみ有料

開発：KENTEM



それではこのアプリについて説明していきたいと思います。このアプリで出来ることは以下のように3つほどあります。

① 安否登録・確認

「無事」「軽傷」「重傷」などをワンタップで送信家族の安否を一覧で確認できる。登録内容は履歴として残るので後から確認も可能。

② チャット機能

家族グループの作成・共有を最大6人まで作成可能。作成したグループでチャット機能が使え、安否確認だけでは分からない細かい情報のやり取りも可能。

③ 位置情報の送信

「今ここにいる」という現在地を一緒に送信可能。地図上で表示され、迎えに行く際や避難先確認に便利。

個別にオン/オフ設定もできてプライバシーに配慮。

他にも各種災害情報や近くにある避難所の掲示、防災関係の知識高める防災トリセツ等、豊富なコンテンツがありました。

クロスゼロを実際に使ってみて、まず感じたのは「非常にシンプルで使いやすい」ということでした。アプリを開いてワンタップで安否登録ができるので、迷うことがなく、直感的に操作できました。スマホに慣れていない高齢の家族にも使いやすそうです。実際に家族グループを作って安否登録を試してみたところ、他のメンバーの状態が一覧で見えるのがとても便利でした。誰が無事を登録したか、誰がまだかが一目でわかるので、グループの中で誰かの状況が分からないというストレスが減りました。また、試しに位置情報の送信もしてみました。地図上での表示もわかりやすく、「どこにいるか」まで家族に伝えられる安心感がありました。これは災害時に家族を迎えに行く必要があるときなどにとっても役立ちそうです。また、災害時に本当に通信がつかぬかどうかは、実際の状況次第なので分かりませんが調べたところ、必要最小限の安否情報だけをサーバに送信、取得するだけなので通信量が非常に軽く、おそらくラインよりは繋がりがやすいのではないかと思います。

いかがでしたか？今回は災害時に家族間での安否確認に有効なアプリを紹介してみました。皆さんのご家庭でもぜひこのようなアプリを導入してみて日頃の災害対策の備えてして活用してみてはいかがでしょうか？

それではまた次号にてお会いしましょう！！（松原）

編集後記

ダブルエッチジャーの皆様今回もここまで記事を読んでいただきありがとうございます。さて、新年度が明けてから1ヵ月が経とうとしています。環境が4月からガラッと変わってきた方も少しずつ慣れてきたところではないでしょうか？先ほど紹介させていたいただきましたとおり、防災委員会も新たに2名の新メンバーを加えましたので、いよいよ次号から新メンバーもそれぞれの担当する新聞記事を書いて頂く予定です。今まで委員になった方々もそうでしたが、ひとえに防災委員といってもそれぞれの防災に対する考え方や捉え方、興味のある分野もバラバラで毎回それぞれの持ち味を活かした記事を書いていただいています。今年度もバラエティに富んだ記事を作成していきながら皆様の防災意識の向上に努めていきたいと考えています。今後ともよろしくお願いたします。（松原）